



会長 菅原 慶一
 幹事 小野寺 伸浩
 会報 高田 次雄 村上 武彦
 森田 峯男
 例会場 ホテルサンシャイン佐沼 ☎22-8180 FAX22-0327
 例会日 毎週木曜日 12:30~13:30
 事務所 ホテルサンシャイン佐沼 ☎22-8180 FAX22-0327

第2685回例会 2019. 3. 14 No.34

本日の出席率

・本日の出席率 88.46%

ニコニコボックス

- ・菅原慶一会長 佐藤早智子会員のゲストスピーカー 名生東右様を歓迎いたします。
- ・高田次雄会員 3・11、78歳の誕生日を無事に迎える事ができました。が、私にはお目出度くはない様です。誕生祝いありがとうございます。佐藤早智子会員の代理スピーチ、名生東右様勉強させていただきます。
- ・佐藤早智子会員 本日、私のスピーチの日なのですが、ゲストスピーカーとして名生東右さんをお願いしています。宜しくお願いします。
- ・村上武彦会員 本日のスピーチに期待して。
- ・飯塚仁哉会員 佐藤早智子会員の代理スピーカーの名生さんを歓迎して。
- ・佐藤幸一会員 佐藤早智子会員のスピーチ代理の名生さんの名調子のスピーチにご期待いたします。
- ・江川元徳会員 今朝、まさかの雪、やはり天気の変化に気をつけて、健康第一!
- ・八谷郁夫会員 ゲストスピーチ、名生様よろしくお願ひします。佐藤早智子会員ご苦労様です。
- ・阿部泰彦会員 名生東右氏をゲストスピーカーとしてお迎えして。例会休みがちですみません。
- ・菅野幸一郎会員 先々週の例会で寄付金を贈呈したほっとスペース「わっか」への贈呈式の写真が3月9日(土)の朝刊に掲載されました。佐沼RCのPRになったと思います。
- ・菅原文之会員 佐藤早智子会員の代理スピーチを期待して。
- ・遠藤光則会員 早ちゃんの代理スピーチ、ご期待申し上げます。

- ・猪股育夫会員 いつも元気いっぱいの佐藤早智子会員のゲストスピーチ楽しみです。
 - ・伊藤幸子会員 本日のスピーチ楽しみにしています。
 - ・二階堂恭子会員 今日のスピーチ、佐藤早智子会員の代理、名生さんのお話楽しみです。
 - ・關孝会員 佐藤早智子会員のスピーチ代理、前北方地区コミュニティ推進協議会会長、名生東右さんのお話が楽しみです。
 - ・布施孝之会員以下 ゲストスピーカーを歓迎して。
 千葉吉男会員 氏家良典会員 山田直志会員
 佐竹孝行会員 佐々木源悦会員 岩淵正彦会員
 熊谷敏明会員 布施孝尚会員 山田正会員
 及川昭宏会員 岩淵栄市会員 加藤亮会員
 後藤和人会員
- 以上、ありがとうございました。

会長要件 菅原慶一会長

寒の戻りと言いますか、今朝方は結構な勢いで雪が舞っておりました。春からまた冬に逆戻りといった感じでした。しかし春はもうそこまでといったところだと思ひます。

先週は、山田直志委員長の環境保全委員会によるフォーラムで、ゲストスピーカーとして公益財団法人宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団の統括研究員、嶋田哲郎さんから伊豆沼・内沼の生物、当該湖沼の特性、そして問題点等を聞くことができました。たいへん興味あるお話で、こんな近くに住んでいても知らなかったことがたくさんあると気づかされました。貴重な生態系を守るために我々も関心を持ち注意する必要があると思ひました。そして嶋田さんたち関係者の方々の努力に感服いたしました。そういった意味から来週21日(春分の日)は恒例のクリーンアップ湖沼群の日です。少しでもきれいな環境を守るための貢献をさせていただきます。

クリスマスオークション収益金の「わっか」さんへの贈呈式の模様が3月9日の河北新報に掲載されました。佐沼ロータリークラブの活動の一端として地域へ広報されました。ご努力いただきました菅野幸一郎会員、河北新報社の小島直広支局長様に感謝いたします。

幹事報告 小野寺伸浩幹事

- ・北上西RCより、創立50周年記念誌が届く
- ・会報が届く、川崎大師RC、伊丹有明RC

各委員会報告

・親睦活動委員会 (加藤亮委員長)

お花見移動合同例会のお知らせ

日時 4月18日(木) 18:30~

場所 鳴子観光ホテル

会費 宿泊 17,000円 日帰り 13,000円

※S-BOXは別途いただきます。

※二次会費は3,000円(参加者のみ)

会員の皆様には改めてFAXにてご案内いたしますので、ご希望をご記入の上4月4日(木)までにご連絡をお願い致します。

今週のスピーチ (担当: 佐藤早智子会員)

「奥の細道紀行文に於ける芭蕉の俳句」

名生東右様

ただ今ご紹介にあずかりました北方の名生でございます。標題にあります通り、芭蕉のことについて自分の知っていること等をお話しようと思っております。

松尾芭蕉が「奥の細道」の旅に出てから今年でちょうど330年になるそうです。生まれは現在の三重県、かつての伊賀上野の藤堂高虎の32万石の家臣の家に参りました。仙台の藩は別にして当時世の中が落ち着いてきて、武士の世の中から自然と商人の時代に移り変わる時期でした。

松尾芭蕉は6人兄弟の3番目の男子として生まれました。俳諧を学ぶことによって身を立てようと言うことで30歳を過ぎてから江戸に出てきたそうです。そのころは江戸の文化もかなり華やかになってきており、俳句仲間もたくさんできたようです。何故、奥の細道を芭蕉が目指したかということは、私も分かりかねますが、やはり古より歌われている「道のくの歌枕」を訪ねようということが基本だったようですし、松島の月が見たいというのも一つの目的だったようです。

奥の細道紀行文は、約2,400kmの道のりを140日かけて、芭蕉と門人曾良が歩いている訳ですから全てお話しすることが出来ませんので、仙台を歩いて道順に従ってお話したいと思います。

松尾芭蕉は元禄2年江戸の深川を発ち、奥州の入口である白河の関に着いたのが4月20日(新暦6月7日)で身を正して越えたということが伝えられております。奥州3関の1つである白河の関であります。奥州に入るにはその大きな関を通らないと入れないというのが江戸時代の一般的なことであります。

仙台の領内に入ったのは5月3日(新暦6月10日)です。当時仙台藩では各所に関所を設けておりました。番所とも呼ばれるものですが31ヶ所ありました。松尾芭蕉も通行手形を持って曾良と共に仙台に入ったようであります。

白石の城を右手に見ながら奥州街道沿いに足を進める訳ですが、曾良は自分たちは間違っていないと思っ歩いてはいたのですが、次の日から先がちよっと間違ったようで、芭蕉が行きたかった笠島に行くことができず武隅の松を見ることになり、ここで句を詠んでおります。

- ・笠島は いづこ五月のぬかり道
- ・桜より 松は二木を 三月越し

名取川を渡って仙台に入ると「あやめふく日也。旅宿をもとめて、四、五日逗留す。ここに画家の加右衛門というものあり、知る人となる。この者により宮城野の萩茂りおり、玉田・よこ野・つつじが岡はあせび咲くころ也。薬師堂・天神の御柱」などを案内される。仙台の大橋を渡って2人は表門をくぐって仙台城に行ったそうです。にわか雨に当って、ほうほうのていで宿に帰ったということが曾良の旅日記に書かれています。

- ・あやめ草 足に結ばん 草鞋の緒
- この句碑は多賀城にあります。

歌枕として有名な、末の松山、玉川・沖の石が散在しております。末の松山は多賀城にあります。東日本大震災の時も末の松山のふもとまで津波が行ったそうで、末の松山の標高は12mで、その山に宝国寺があります。それを見てから芭蕉は塩釜に行きます。塩釜に泊ってから次の朝塩釜神社を参拝して、船で松島に渡ります。松島では観光客よろしく見てまわったように紀行文の中に「抑ことふりにたれど、松島は扶桑第一の好風にして、凡洞庭・西湖を恥ず。東南より海を入れて、江の中三里、浙江の湖をたたふ」という名文で語っております。こんなに良い所なのに芭蕉は松島で句を詠んでおりません。曾良が「松島や 鶴に身をかれほととぎす」と詠んでおります。

翌日12日、「平和泉と心ざし、あねはの松・緒だえの橋など聞伝て、人跡稀に雉兔芻蕘の往かふ道そこともわからず、終に路ふみたがへて、石の巻という湊に出。こがね花咲とよみて奉たる金花山、海上に見わたし、数百の廻船入江につどひ、人家地をあらそひいで、竈の煙立つづけたり。思ひかけず斯る所にも来れる哉と、宿からんとすれど、更に宿かす人なし。漸まどしき小家に一夜をあかして、明れば又しらぬ道まよい行。」とても苦労した様子が書かれています。

- ・夏草や 兵どもが夢の跡
- ・五月雨の 降り残してや 光堂
- ・蚤虱 馬のしとする枕元
- ・卯の花に 兼房みゆる 白毛かな (曾良・平泉にて)



ゲストスピーカー 名生東右様